

ワールド・コラボ・フェスタ2021
Buna ziua! ～祝日本・ルーマニア国交樹立100周年～



ROMÂNIA
ルーマニア

写真で見るルーマニア

- ◆ ルーマニアには、トランシルバニア (Transylvania)、バナット(Banat)、オルテニア (Oltenia)、モルドヴァ(Moldova)、ムンテニア (Muntenia)、ドブロジャ(Dobrogea)、クリサナ (Crișana)、ブコヴィナ (Bucovina)、マラムレシュ (Maramureș) の9つの地方があります。
- ◆ 説明で地方名が出てきたら、下の地図を思い出してください。



ルーマニアの主要都市

- ◆ ルーマニアの玄関・首都の①「ブカレスト」
- ◆ シギョシアラや世界遺産が近くにある第2の都市⑭「ブラショフ」
- ◆ 商業都市として発展した⑧「シビウ」は、最盛期の16世紀にはウィーンに匹敵する大都市でした。



ルーマニアの街① 首都ブカレスト

- ルーマニアの首都で人口約200万人。ブカレストに関する最初の公式記録は、あのドラキュラのモデルとなったヴラッド・ツェペシュ領主(ヴラド3世)が1459年9月20日に書いたものです。
- 当時の町を中心は、現在のブカレストの旧市街となっています。
- 緑の景観と絵のような建物が見事に調和した美しい街で、20世紀初頭には「バルカンの小パリ」「東欧のパリ」と呼ばれるほどの美しい街並みを誇る都市になりました。



- <上>旧市街地からCEC宮殿（現CEC銀行本部）を望む小道。
- <左>市内にあるオープンカフェ。左端にあるのは電話ボックスではなく、売店。
- どちらも雰囲気素敵ですね。



Caru' cu Bere (カル・ク・ベ)

- Caru' cu Bere「ビールを運ぶ荷馬車」は、ブカレストの旧市街地「リプスカニ」で1879年に開店したレストランとバーです。
- アール・ヌーヴォー様式のインテリア装飾が目立ちます。
- ブカレストの歴史地区は中世、新古典主義、アール・ヌーヴォー様式などの建築物が混在し、東洋と西洋が混ざり合う雰囲気醸し出しています。
- ブカレストのランドマークの一つであり、ルーマニア伝統料理を楽しめる人気のレストランです。

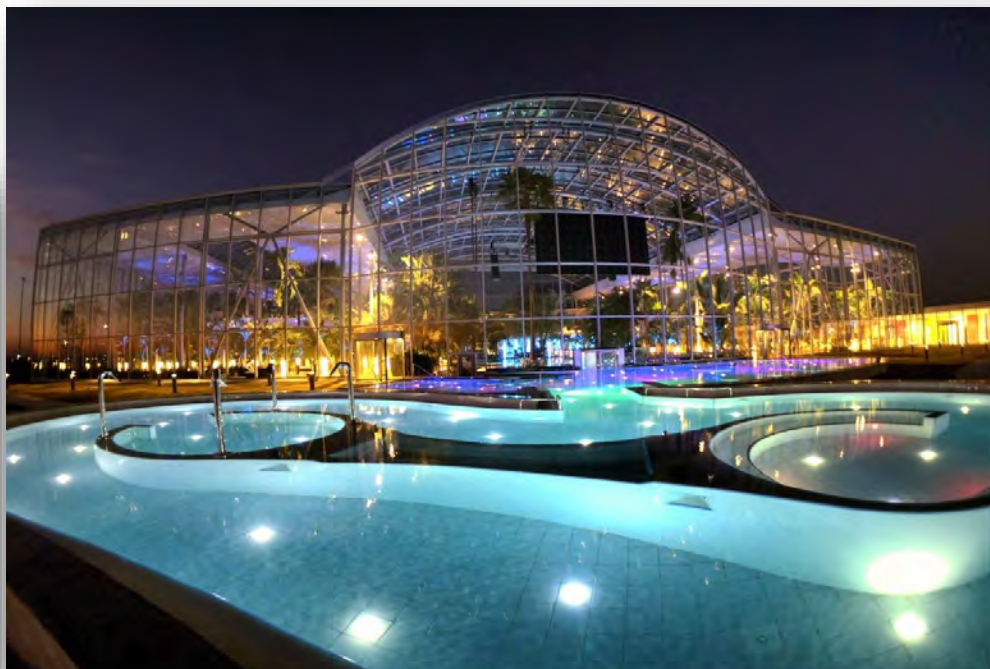
カルトウレシティ書店チェーン「カルセル店」

- 人気の旧市街地「リプスカニ」にある20世紀初頭に建てられた建物を利用した首都で最もモダンな書店です。
- 「本の購入することで文化的な体験をする」が、コンセプトです。
- 一階から四階まで吹き抜けになっていて、とても開放感がありますね。





テルメ・スパリゾート



- ◆ 2016年オープン、ヨーロッパ最大級の「テルメ・ブカレスト」(Therme Bucuresti)
- ◆ 写真のとおり大規模な施設で、観光客・外国人だけでなくルーマニア人にも人気とのこと。もちろん水着着用です。
- ◆ 「ギャラクシー」(家族向け)、「パーム」(温水プール、室内植物園)、「エリシウム」(サウナ)の3つのエリアがあります。
- ◆ 日本のジャングル風呂などをはるかに上回ります。すごいですね。



ブカレストの街角風景

5

- ◆ <左の上下、下左>ブカレストの旧市街地にあるガラス屋根を持った、Macca-Vilacrosse（マカ・ヴィラクロス）と呼ばれているアーケードです。
- ◆ <下右>楽器屋さんの1階にあるCD、本などの販売コーナーです。
- ◆ <右の上下>レストランとカフェです。お洒落なお店ですね。





- ◆ ルーマニアが世界に誇る作曲家・ヴァイオリニストのジョルジュ・エネスクの銅像には、ブカレストのいたる所で会うことができます。
- ◆ 左の像は街の中心にありますが、ルーマニア国立音楽大学正面玄関、ルーマニア国立歌劇場前などでも会えます。
- ◆ そのほか、エネスクの名前がついたエネスク音楽高校、エネスク通りもあります。



- ◆ 右は、ジョルジュ・エネスク ミュージアムです。
- ◆ カンタクジノ宮殿とも呼ばれる、ロココ調の素敵な建物です。
- ◆ ミュージアムには、エネスクの自筆譜から数々の貴重な資料、使用していたピアノ、デスマスクまで、展示されています。
- ◆ エネスク作曲の名作、ルーマニア狂詩曲第1番が流れる中、偉大な作曲家エネスクに思いを馳せてはいかがでしょうか。

ルーマニアの街② シビウ市

- ◆ かつてローマ人が住んでいた場所にザクセン人が入植して誕生しました。
- ◆ 二度にわたるハプスブルク体制下では、トランシルバニアを治めるオーストリア人総督が常駐する場所となりました。ドイツ人入植者の政治的中心地となった地でもあり、街中には二言語表示の看板もみられます。
- ◆ 2007年には欧州文化都市に選ばれました。

7



- ◆ <上>じっとこちらを見ている目のように見える家々にある煙突の窓が、街並みに一風変わった味わいを加えています。
- ◆ <右>大広場（ピアッツァ・マーレ）北側には1733年に完成したバロック様式のカトリック教会がそびえたっています。他に、市参議塔や1848年の農民暴動で闘った人々を記念した記念碑、などもこの広場の周りにあります。中世から街の中心地でした。



シビウ国際演劇祭

- ◆ ヨーロッパ三大演劇祭の一つで、毎年70か国から約350団体が参加し、10日間にわたって演劇やダンス、ストリートパフォーマンスなどが街全体で行われます。
- ◆ 日本からも、故中村勘三郎氏、野田秀樹氏や野村萬斎氏などが参加しました。



うそつき橋

8

- ◆ 福音教会から大広場へ抜ける道にかかっているこの橋の上で嘘をつく、橋が崩れてしまうという言い伝えがあります。
- ◆ 小ずるい商人がこの上で商売をしていたから、若い恋人がこの橋の上で永遠の愛を誓ったからなど、その名の由来には諸説あります。
- ◆ 1859年に建造された、ルーマニア最初の鉄橋です。

ルーマニアの街③ ブラショフ市

- ◆ ブラショフ市は人口32万人、ルーマニアの中央、トランシルバニア地方の南部にある都市です。
- ◆ 首都ブカレストに次ぐ観光都市で、中世の街並みを残す町です。
- ◆ ドイツ人、ルーマニア人、ハンガリー人の3つの民族によって発展してきました。



ルーマニアの街④ サプンツァ村の 陽気な墓地

- ◆ みなさんはお墓と聞いたらどんなイメージをするでしょうか？
- ◆ 灰色の墓石がいくつも並んだ薄暗い場所を、イメージするでしょう。
- ◆ でも、ここマラムレシュ地方のサプンツァという村にある陽気なお墓として知られる「The Merry Cemetery」という墓地は皆さんの想像する墓地とはちょっと違います。
- ◆ 一見すると墓地とは思えないような鮮やかなブルーを基調としたカラフルな十字架がいくつも並んでいるのです。
- ◆ ここは国内でもとても人気のある観光地の一つであり、歴史のある墓地なのです。





- ◆ 現在800を超えるユニークな十字架が初めて作られたのは1935年といわれています。
- ◆ 地元で有名だった画家、彫刻家であり詩人のStan Ioan Pătrașが故人の人生をお墓に彫り始めたのがきっかけです。
- ◆ 彼は自身が亡くなる1977年まで十字架を彫り続け、自分の十字架も自ら彫り現在も墓地の中に残っています。彼の死後もその伝統は弟子達によって引き継がれています。
- ◆ これらの死に対する陽気な態度はダシアン文化の習慣であると考えられています。
- ◆ ダシアンの人々にとって死とは、その後の人生への道であるため悲しむものではないとされています。

ルーマニアの季節

- ◆ ルーマニアは大陸性気候であり、4つの季節があります。日本の東北地方と似た気候です。
- ◆ 春：3月～5月、朝晩は涼しく、日中は暖かい。
- ◆ 夏：5月後半～9月中旬、晴れた暑い日が多く南部は気温が30℃にも。ただし日本のような湿気はないので過ごしやすい。



12

- ◆ 秋：9月～11月。乾燥し涼しく、木や山は鮮やかな紅葉の季節となります。
- ◆ 冬：11月～2月。寒く、気温は0～5℃です。山にはたくさんの雪が降り積もり、スキーやスノーボードなどを楽しむ人々には最高の場となります。
- ◆ ブカレストでは、あまり雪は積もりません。
- ◆ ブカレストの夏の平均気温は20℃前後、冬は1℃に達しません。





ルーマニアの自然① ドナウ・デルタ(Delta Dunarii)

- ◆ ドナウ河は、ドイツの山岳帯に源流を持ち8か国を貫流し、最後にルーマニアで黒海に流れ込みます。その河口に広がるのが、雄大なドナウデルタです。
- ◆ ドナウデルタの主な運河は3つあり、その運河の間に広がる湿地帯が、世界で唯一の絶景を見せてくれる魅惑のデルタなのです。
- ◆ ドナウ・デルタでの主な観光手段はボートやフェリーなどの船です。壮大で美しい自然が残るドナウ・デルタの景色を船から望み、素敵な時間を過ごしてみたいはいかがですか？



- ◆ ドナウ・デルタは、ヨーロッパ最大の自然三角州で人の手がほとんど入っていません。300種を超える鳥類や1000種類以上の植物など、固有の自然が残っています。
- ◆ ドナウ・デルタはヨーロッパ唯一のペリカンの群生地であり、例年8月頃にトルコやギリシャを經由してモロッコやナイル川中流等をはじめとするアフリカ中部へと渡っていくそうです。
- ◆ ドナウデルタの大部分は1991年、ユネスコの自然世界遺産に指定されました。世界的に有名なラムサール地区をはじめ、自然保護地区は18か所あります。





- ◆ ブカレストから約145km、ムンテニア地方・ブザウ県のベルカにはノロイヨシ火山という場所があります。火山と名前がついていますが、実は、火山活動と関係はありません。
- ◆ 地中の粘土が、人体には無害なガスなどと共に噴出されて堆積し、地形をつくる泥火山なのです。「泥火山」という言葉にあまり馴染みがないかもしれませんが、日本にも、北海道に新冠泥火山があります。
- ◆ 堆積して冷えて固まった不思議な地形を楽しむことができます。また、土壌に塩分が濃縮しているため、植物の種類こそ少ないものの、非常に珍しい植物を目にすることができます。

ルーマニアの自然
② 泥火山

15



ルーマニアの自然③ ビガー滝とカザネ

- ドナウ川がカルパティア山脈を横断する部分の峡谷は「カザネ」（大釜）といいます。
- ムラコニア修道院（写真中央の建物）、ヨーロッパで一番高い（55m）岩壁彫刻「ダキア最後の王、デチェバル肖像」などは見所です。

16



ビガー滝

- 美しい緑色のコケに覆われ、湖の上に雲みたい浮かんでいるかのように見える岩を流れる滝です。
- カラシュ・セヴェリン県のCheile Nerei自然公園にあるビガー滝の特色です。2013年まで地元の人にしか知られていなかったがWorld Geography Magazineで「世界一美しい滝」と命名されて以来、人気観光地になりました。
- 最も滝の水量が多い3月と4月が、一番美しい時期です。
- 2021年に、自重の重みで崩れてしまいましたが、ますます人気を集めているようです。（写真は崩落前）



峡谷「カザネ」

ルーマニアの自然④ トランスファガラシャン国道とブレア湖

- ◆ ルーマニアで最も美しいといわれている道路、トランスファガラシャン。
- ◆ ルーマニアで最も高い峰のあるファガラシュ山脈 を通っていることが、その魅力の一つです。

17



トランスファガラシャン国道
(Transfăgărașan)

- ◆ 山々に囲まれた中にあるいくつかのヘアピンカーブやアップダウンのある道からの壮大な景色は、多くの人々を圧倒することでしょう。
- ◆ 最も高いポイントは約2042mに達し、近くには人気の観光スポットであるブレア湖が位置しています。
- ◆ ブレア湖からはハイキングのルートがいくつも続いているため自然の中で足を伸ばすのに最適な場所です。
- ◆ 標高の高い場所に位置しているため、完全にオープンしているのは6月から10月の間となっています。



氷河湖ブレア湖
Bâlea Lac

- ◆ サリーナ・トウルダは、世界的にも珍しい岩塩坑を利用して作られた巨大なスペースのアミューズメントパークで、なんと観覧車や地下湖のボートに乗ることまでできます。
- ◆ 場所はトランシルバニア地方で一番大きな都市クルジュナポカから程遠くない町、トウルダに位置しています。
- ◆ 11世紀～13世紀頃頃から採掘が始まったとされ、1932年に採掘が中止されたとても長い歴史のある岩塩鉱山です。
- ◆ 1992年から、ギャラリーやミュージアムなどとして展示品を見ることができる場所としてオープンしました。2008年に全面的に改装され、2010年から再び多くの観光客を魅了しています。



- ◆ 博物館の展示品の中にはトロツコなど採掘現場で使用されていたものを見ることができ、当時の様子を窺うことができます。しかし、サリーナ・トゥルダを訪れる最大の魅力は、幻想的な光でライトアップされた地下約120mの現実とは思えない巨大な空間でしょう。その近未来的で不思議な光景はSF映画のシーンの一部のようなだとも言われています。
- ◆ 鉱山の中の空気は澄んでいるとされているため、新鮮な空気を吸って幻想的な景色を眺めることでリラックスすることもできます。
- ◆ ここでしか体験することのできない、とてもユニークな地下遊園地にぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。



ルーマニアの城① ブラン城

- ◆ 吸血鬼ドラキュラの城として有名なブラン城。
- ◆ ブラショフの郊外にあるこの城はオスマン兵がブラショフに侵攻してくるのを監視するために14世紀末に築かれたそうです。
- ◆ ヴラド3世（ドラキュラ伯爵のモデル）が、ここに住んだという記録は残念ながらありませんが、その祖父はブラン城に居住していたようです。
- ◆ 中世には別々の国だった「トランシルバニア」と「ムンテニア」の国境に、この城は建設されました。

20



- ◆ 石造りの城で、商人たちが行き交う道路の関所を、高いそそり立った崖から守る役割を持っていました
- ◆ 現在は博物館として見学できます。14世紀と19世紀の、武器、鎧、家具、絵、イコンなどが展示されています。

- ◆ この城が建てられた1446年当時、フネドアラの都市も含めトランシルバニア地方はハンガリーの領土でした。城は、ハンガリーの軍事指導者でもあり王の摂政でもあったジョン・フニャディの命令で建設されました。
- ◆ この城にはドラキュラ伝説で有名なヴラド3世に関わる城でもあります。ヴラド3世は、ジョン・フニャディによって捕虜としてこの城に7年間幽閉されていたといわれています。ジョン・フニャディが父のヴラド2世の処刑を担当したことなどの関連性も含めて、フネアドラ城はブラン城と並んでドラキュラ城のインスピレーション源の一つともされることもあります。
- ◆ ルネサンス・ゴシック様式で、小さなズラティ川の上の敷地に建てられたこの城は、荘厳で少し重々しい雰囲気を残しています。細く長い橋を渡って城の中に入る、という造りは夢がありとても魅力的です。

フネドアラ城

21

ルーマニアの城②

ペレシュ城

- ◆ 1875年にカロル1世がルーマニア王室の夏の離宮として8年をかけて建て、カロル1世と妻エリザベータの夏の別荘でした。
- ◆ ルネッサンス、バロック、ロココ様式を取り入れた壮麗な城で、庭園には数多くの彫刻と噴水が配置されています。
- ◆ 宮殿内には160ほどの部屋があり、カロル1世の集めた絵画、美術品、陶磁器や中世の武器などが飾られています。彫刻や噴水のある庭園からはシナイア峡谷が一望できます。



フネドアラ城



ルーマニアワイン

- ◆ ワインといえば、みなさんの頭の中に浮かぶのは、フランス、イタリア、チリのワインですか？
- ◆ 実はルーマニアもヨーロッパでは主要なワインの生産国で、数多くのヨーロッパの人々に愛されています。
- ◆ ルーマニアワインは歴史も古く、紀元前からワインの製造が行なわれていました。
- ◆ 中世ヨーロッパの皇帝・国王たちが愛飲していたのも、ルーマニアのコトナリの白ワインだったのです。
- ◆ 19世紀の後半には有名なワイン国際博覧会で高い評価を受け、パリでルーマニアワインの大ブームが起きたほどです。



ルーマニアワイン豆知識…Royal Cellars「貴族の貯蔵庫」

- ◆ ワイン貯蔵庫は地下深くあればあるほど、良いワインが生まれる…とは真実です。
- ◆ 有名な産地のコトナリでは、ステファン・セルマーレ大公により、みごとな貯蔵庫が作られています。カルホアイア地方に行くと、ルーマニアでも屈指の深層地下貯蔵庫を見ることができます。
- ◆ モルダビアには、このような施設があちこちに散在しており、訪れる観光客を、温かく迎え入れてくれています。



ルーマニア・ワイン旅

- ◆ 豊橋市にある東欧ワイン専門店「アルテソロレス」のオーナールーマニア人のダニエルさんは、日本人の仲間やお客様と一緒にルーマニアのワイナリー訪問をされています。
- ◆ 「ワイン旅はワイン文化を皆様に伝えるだけでなく、出逢いの場でもあります。色々な方と出逢うことによって、お互いの文化を理解し合うことになり、人生はより豊かになっていくと信じています。」とダニエルさんは話されます。
- ◆ 残念ながらコロナ禍のため、「ワイン旅」は休止中です。

23



2018年5月のワイン旅日記



- ◆ トランシルバニア地方、タルナーヴェ産地に位置するジドヴェイワイナリーを訪問させて頂きました。冒険、喜びと勉強たっぷりの旅でした。
- ◆ ジドヴェイワイナリーのブラージュ醸造所(左)を見学しました。ジドヴェイのミステリウムシリーズとカステルシリーズが生まれる醸造所です。
- ◆ 畑見学に参加したい人だけ、4時半に起き、葡萄畑の中から朝日を楽しみました。(上)

2019年7月のワイン旅日記



- ◆ アルマーレ産地、ブザウ県、サハテニ村のサハテニワイナリーを訪問しました。ワインの作り方の説明を受けてから、まだ日本に輸入されていない15種類のワインを試飲しました。
- ◆ <下左>案内してくれたのはサハテニワイナリーの若手ワインメーカーのシュテファン（右）さん、左はダニエルさん。
- ◆ <下中>試飲会の時は、ルーマニア土着品種のプロモーターとして有名な伝説の女子ワインメーカー、アウレリア・ヴィシネスクさんも参加していただきました。
- ◆ 次に、カサ・ティミシュワイナリーへ向かいました。カサ・ティミシュはデアルマーレ産地、プラホヴァ県、キツォラニ村の生まれたばかりの赤ちゃんワイナリーです。
- ◆ <下右>宿泊はカサ・ティミシュワイナリーの豪華ペンション。

24



クリスマス① シビウ市

- ◆ ルーマニアで初めてのクリスマスマーケットが開催されたのは、2007年、シビウでした。
- ◆ 100以上もの屋台には、様々なフードやドリンクが並びます。地元産の肉料理、チーズ、デザート、ハンバーガーからホットドックまで味わえます。
- ◆ お土産に相応しいクリスマスの飾り物や、アクセサリー、ルーマニアの伝統的な手芸品も手に入れることができます。

25

- ◆ 一度に約300人が滑られる広々としたスケートリンク、「サンタの公園」では、小さな子供用の電車がサンタクロースの周りを走っています。広場の前には小さなステージが設置されており、クリスマスキャロルなどが披露されます。
- ◆ 更に日没後には、クリスマスをイメージしたプロジェクターマッピングが周囲の建物に投影されます。観覧車からは、美しい建物に囲まれたシビウのクリスマスマーケットの全景を見渡せます。
- ◆ クリスマスマーケットは毎年11月中旬から1月初めまで開かれます。



クリスマス② ブカレスト

26

- ◆ ブカレストのクリスマスマーケットの一つは、国民の館の目の前にある広場（コンスティトゥツィエイ）で行われています。毎年100万人もの人々が訪れるそうです。
- ◆ 100以上の装飾された屋台には、ハンドメイドの人形、アイコン、ルーマニアの伝統衣装などが並んでいます。
- ◆ ここはルーマニアの伝統料理を味わえる場所です。コゾナック（ルーマニアの甘い菓子パン）や伝統的なパイにルーマニア・ワインも売っています。



- ◆ スケートリンクやメリーゴーランド、ライブステージが、ヨーロッパの本格的なクリスマスマーケットを味わらせてくれます。特に日没後は、何千もの電球が灯された25メートルもの豪華なクリスマスツリーやイルミネーションに照らされるマーケットがとても素敵です。
- ◆ ブカレストのクリスマスマーケットは、例年12月1日頃から30日まで催されます。
- ◆ ブカレストでは、コンスティトゥツィエイ広場だけでなく、様々な場所でクリスマスのイベントが開催されます。
- ◆ クリスマスには、マーケットやイベントを巡るのも楽しいですね。





世界遺産① ダキア人要塞群

- ◆ ローマ帝国時代のダキア人の砦の遺跡は、ルーマニアにとって、特別な意味を持つ世界遺産です。
- ◆ ローマ皇帝トラヤヌスは101年ドナウ河を渡り、ダキア軍との戦闘を開始。ローマ軍はダキアを中心オラシュティエ連峰にまで侵攻し、ダキアの首都サルミセジエツザを完全に包囲。ダキアの王デチェバルは、やむなく屈辱的な平和条約締結に追い込まれました。（第1次ダキア戦役）
- ◆ 105年にトラヤヌス帝率いる大軍が侵攻を再開し、翌年、サルミセジエツザ要塞はついに陥落。デチェバルは自害、ダキアはローマ帝国の属州になったのです。（第2次ダキア戦役）
- ◆ ローマ人による祖国ダキアの征服は、その後のルーマニアの歴史と文化、そしてルーマニアの国民形成にとって最大にして決定的な出来事でした。現在その戦いの痕跡は、遺跡となって我々の前に歴史を物語ります。



- ◆ 世界遺産ダキアの古代砦は6つの砦から成りますが、左の写真は、そのうちの一つ「サルミセジエツザ砦」です。
- ◆ 陶器、食器、道具、金銀の貨幣や装飾品など、ダキア人の生活がしのばれる遺物が次々に発掘されていますが、ダキアの王デチェバルの秘宝のありかは、謎のままなのです。

世界遺産② トランシルバニア要塞教会群

- ◆ 1394～1690年の3世紀にわたり、トランシルバニア地方は、オスマントルコに14回も侵略されました。このため、住民を守る強固で城壁の厚い要塞を建てる必要に迫られたのです。
- ◆ 外敵に包囲された時に備えて、水、食糧などの生活物資を備蓄していました。1600年頃、このような要塞教会は600か所もありましたが、現在ではその半分しか残っていません。
- ◆ これらを代表するビエルタンを始め、1993年、ユネスコは、トランシルバニアの要塞教会の7か所を登録しました。



世界遺産③ ホレズ修道院



- ◆ オルテニア地方にある、唯一の世界文化遺産の修道院です。この地域は、修道院を建てる際に2つの最適な条件を満たしています。第一に美しい自然、第二に隔絶した環境です。
- ◆ 1688～1714年にこの地を統治した領主「コンスタンティン・ブルンコヴェアヌ」によって創立されたのが、このホレズ修道院です。
- ◆ 領主は信仰の深い人でしたが、その最期にイスラム教徒のオスマントルコ軍に捕えられ、息子3人と一緒にコンスタンチノポリに連行されて殺されてしまいました。
- ◆ ホレズ修道院の着工は1691年で完成は1697年です。
- ◆ 独創的なデザインは、この領主の名前にちなみ「ブルンコヴェネスク様式」と呼ばれています。質素でありながら、気品があり優美であることが特徴です。ほかの修道院と同様に、教会の周辺部に神父の住居があります。
- ◆ この修道院には小さな付属の教会が4つあります。鐘楼から時を告げる鐘の音が聞こえ、それが非常に趣き深い雰囲気醸し出すのです。
- ◆ 教会は石造りで多くの装飾が施され、教会の内部には創立者の「ブルンコヴェアヌ」の絵も飾られています。そのほかにも、当時の教会で使われた道具、4,000冊の本、絵画など面白いコレクションが、このホレズ修道院で見られます。



Multumesc



【情報・写真・イラスト等 提供元】

- ルーマニア大使館 : <https://tokyo.mae.ro/jp>
- ルーマニア政府観光・商務局 : <https://www.romaniatabi.jp/>
- Unsplash : <https://unsplash.com/>
- イラストAC : <https://www.ac-illust.com/>
- ダニエルさん「ワイン旅」 :
<https://www.danielswine.club/wine-travel.html>

【参考文献】

- 「賢帝の世紀・ローマ人の物語IX」（塩野七生著）



EMBASSY OF ROMANIA
in Japan

▲ ルーマニア大使館へ

Romania

▲ ルーマニア観光局へ